

## 内科医 つれづれ草

高山浩一

⑯

### 病棟回診

私の日常業務の一つに病棟回診があります。「白い巨塔」をはじめとする医療ドラマで、教授回診の場面は、かなり権威主義的に描かれていますが、実際はかなり異なります。ただ、多くの医師が集団で病棟を回っているところは同じです。病院によつては、教授回診だけでなく、准教授回診や研究室ごとの回診、あるいは院長回診など、さまざまな回診があり

## 患者は医師を映す鏡

診療には何ら支障はありません。

回診の目的は入院患者さんの病状を実際に診察して診断や治療方針を確認することです。もう一つ大事な目的として実習に参加している学生や研修医の教育があります。



イラスト・山本重也

病棟回診では病室に入る前に患者さんを担当している研修医が病状を説明します。1分程度の短い時間ですが、よくまとまり、患者さんの了解を得て学生にも診させていただきます。

入院中の心細い気持ちを少しでも和らげることができればと思いますが、診察の最初にまず患者さんの手を握ります。手当の短い時間ですが、よくまとまり、患者さんも何かその患者さんについて問題なのか把握できますし、実のある討議ができます。

短時間で要点を的確に伝えるにはスキルが必要ですので、回診など、さまざま回診があります。病棟回診の場合は、研修医の発表は研修医のトレーニングにもなっています。もちろん発表がまくても、上級医が付いていますから、患者さんの

言葉と、戸惑った表情をされたり、「どうしたらよいですか」と聞かれたりすることもあります。

入院して来られたばかりなら、そういうこともあるでしょうが、1週間も入院している患者さんの場合は、担当医の診療

態度を少々疑ってしまいます。

担当医がどのような診察をしているのか、私がそばで見ることはありませんが、回診の時

の短い時間ですが、よくまとまり、患者さんの態度を見ていると、

担当医が日頃どのように患者さんと接しているか、手に取るよ

うに分かることがあります。

子は親の鏡と言いますが、患者さんは医師を映す鏡もある

と思います。

(京都府立医科大学教授)